



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 120) uniwish47号
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2025年4月)
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
Facebook <http://www.x.gd/SJIJA>



日本ユニセフ協会は、今年創立70周年を迎えます。

おめでとう! ありがとう!

日本ユニセフ協会は今年創立70周年を迎えます。
日本の皆さまからの想いを世界の子どもたちへ届け続けた70年は、世界の子どもたちのことを日本へ伝え続けた70年でもありました。

昭和、平成、令和とさまざまな時代を経ながら、世界の子どもたちのための「募金活動」「広報活動」「アドボカシー・啓発活動」を今日まで70年間、皆さまとともに続けてきました。

日本ユニセフ協会の歴史(概略)

- | | |
|-------|---|
| 1945年 | 国際連合設立 |
| 1946年 | 第1回国連総会でユニセフ(国連児童緊急基金)が創設される |
| 1947年 | 粉ミルクなどの支援物資が欧州に届けられる |
| 1949年 | 日本へのユニセフ支援がはじまる |
| 1954年 | 米国の人気コメディアンで映画スターのダニー・ケイがユニセフ親善大使第1号となる |
| 1955年 | 日本ユニセフ協会が財団法人として設立される |
| 1956年 | 第1回ユニセフ協力募金(現在の「学校募金」)がはじまる |



© 日本ユニセフ協会



日本は1949年~1964年まで15年間にわたって、学校給食用の粉ミルクや医薬品など、当時のお金で65億円にのぼる支援を受けました。



2024年「子どもの権利条約」

日本が批准して30年となり、「こども家庭庁」が発足し、「子ども基本法」も施行されました。

2024年9月“こども真ん中社会”の様々な取り組みがスタートしました。



「ユニセフ」と「こども家庭庁」共催での取り組み「こどものけんりプロジェクト」は、日本における「子どもの権利」の正しい理解と普及を通じた子どもたちのウェルビーイング(幸福度)の向上を目指す新たな取り組みです。



応援キャラクター「ジーンとケン」と長谷部誠日本ユニセフ親善大使

世界の子ども達は、様々な危機に見舞われている。

2025年3月28日午後0時50分（現地時間）、
ミャンマーでマグニチュード7.7の地震が発生



ミャンマー地震緊急募金

【2025年3月30日ニューヨーク/
バンコク/ヤンゴン発】



© UNICEF/UNI770507/anonymous
震源地のミャンマー中部マングレー地域の
倒壊した建物。被災地は電気と通信網が遮
断されており、支援活動が困難な状況にあ
ります。（ミャンマー、2025年3月28日撮影）

ミャンマーでは、3月28日に発生した地震により、900万人以上が影響を受け、約630万人が緊急支援を必要としています。被災地域では、家屋や上下水道などのインフラが破壊され、栄養不良や感染症のリスクも高まっています。地震発生からまもなく1カ月が経ちますが、今なお約20万人が避難生活を余儀なくされており、支援ニーズは甚大です。

ミャンマー地震、続く避難生活、
命と未来を守るために
ユニセフの支援が希望をつなぐ

【2025年4月24日ミャンマー発】

命を未来を守る、ユニセフの支援

ユニセフは、地震発生直後から、被災した子どもたちと家族のために、安全な水の提供、衛生用品の配布、保健医療・栄養支援、心理社会的ケア、教育支援など、多岐にわたる人道支援を届けています。



© UNICEF/UNI777470/Htet
地震で被災した母親たちに新生児用キットを配布するユニセフの保健担当官（ミャンマー、2025年4月4日撮影）



ウクライナ緊急募金

危機の発生から2年以上。
ウクライナの子どもたちは今も苦しみの中にいます。



ガザ人道危機 緊急募金

命の危機にさらされるガザの子どもたち



がれきが散乱する中、わずかな食料を口にする2歳のアルマちゃん（パレスチナ、2025年3月22日撮影）

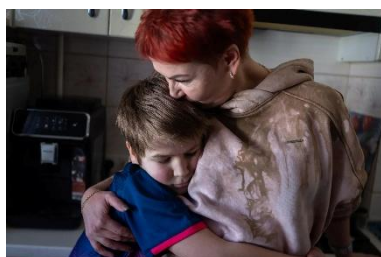
ウクライナ危機3年 飢えに苦しむガザの人々

2,520人以上の子どもが死傷
「5人に1人が近親者か友人を亡くす」ユニセフ発表
【2025年2月21日キーウ/ニューヨーク発】

死と破壊が日常

2024年に3年目を迎えた本格的な戦争は、ウクライナの子どもにとって、その前年よりもさらに死が身近に迫りました。

2022年2月以降、2,520人以上の子どもが死亡または負傷しています。これらは国連が確認できた子どもの死傷者数のみのため、実際の数はこれよりはるかに多いと考えられます。



© UNICEF/UNI738309/Filippov
南部の主要都市ヘルソンで暮らすアンドレイさん（10歳）。昨年冬の父親を亡くし、「僕がママを支えたい」と話す（ウクライナ、2025年2月9日）

命を守る支援を提供



© UNICEF/UNI691525/Pecherytsia
ユニセフ支援の家庭訪問プログラム。遠隔地に住む親子のもとへ看護師が訪問し、子どもの発達を支援している（ウクライナ、2024年10月14日撮影）

ガザ物資搬入遮断、2カ月目に
ユニセフ等7つの国連機関の声明
「国際社会は今、行動を」

【2025年4月7日ニューヨーク/ローマ発】

ガザ物資搬入遮断、2カ月目に

ガザ地区には1カ月以上も、商用物資も人道支援物資も搬入されていない状況が続いています。210万人以上の人々が再び逃げ場を失い、爆撃を受け、飢えに苦しんでいます。一方で、検問所付近には食料、医薬品、燃料、避難所用の物資が山のように積み置かれ、極めて重要な機材が足止めされています。



© UNICEF/UNI774450/Nateel
ガザ地区で避難所となっていた学校が爆撃され、けがをした息子二人を抱きしめる母親。5歳のアブドラちゃん（左）と3歳のモハメッドちゃん（右）の他にも、行方不明の娘がいる（パレスチナ、2025年4月3日撮影）

気候変動は、子どもの権利の危機。



◆世界の子ども人口の約半分にあたる10億人もの子どもたちが気候変動の深刻な影響を受けている。熱波・洪水・暴風雨などの気象災害で迫り来る子どもたち命の危機、貧困や教育の寸断が危惧される。

気候変動により、異常気象が起こる頻度が増え、災害の規模も大きくなっています。気候変動による影響は、すでに世界各地で食料や水、感染症、災害などさまざまな問題を引き起こしており、国際社会が十分な行動をとらなければ、状況はさらに深刻になる可能性が高まります。

その影響をもっとも受けるのは子どもたちです。世界中の子どもたちの健やかな成長と、将来の可能性がうばわれています。

《バングラディッシュの洪水》

《ユニセフ2024年猛暑日分析》



ユニセフ/UN0642143
バングラディッシュのスナムガンジで学校に通う途中、洪水の中を歩く少女たち

感染症の蔓延

洪水などで家屋が浸水した被災地では、細菌やカビの繁殖、害虫の発生、下水による汚染により、不衛生で感染症が発生しやすい状態になります。感染症は、幼い子どもたちの命に大きな脅威をもたらします。5歳未満児の死亡原因の約3割は、肺炎・マラリア・下痢です。



© ユニセフ2024

気候熱ストレス

気候変動は子供たちを変えています。夏の一番暑い日々が、いまや日常のようになっています。ユニセフの新たな分析によると、世界の子どもの5人に1人、つまり4億6,600万人の子どもが、わずか60年前と比較して少なくとも2倍以上の極めて暑い日に毎年見舞われる地域に暮らしています。猛暑は増加の一途をたどり、子どもたちの健康やウェルビーイング、日常生活に支障をきたしています。

教育の中断

気候変動の影響は、災害の激甚化・頻発化にも及んでいます。災害によって、学校が休校になったり、道路が寸断されて通学が困難になるケースや、あるいは、極度の高温や厳しい寒さによる体調不良から授業を欠席するケースがあります。



《南太平洋のキリバスは、今》

《アフリカ大陸南部ザンビアは、今》

◆ 海岸線の侵食で家を失った

◆ 異常気象による干ばつ・水不足

【2024年11月12日東京発】



自宅と商店があった場所に立つ家族。「キング・タイド」と呼ばれる大潮にすべて流された。

©日本ユニセフ協会/Hironobu Nozawa

深刻な干ばつ被害のため、農作物は不作となり、水場は干上がり、食料不安につながっている。



海面上昇で被害を受けるキリバスの人々。
毎日、干潮と満潮の影響を受けるキリバス。年に数度、地球と月と太陽の位置関係で引き起こされる「キング・タイド」と呼ばれる最大級の満潮時は水位が3メートルを超えます。最高標高が海拔3メートルのタラワ島では、家が浸水したり、流されたりする危険が高まります。

いま、自宅があった場所は満潮時には海に沈むようになり、一軒の家も建っていません。壊れた防潮堤だけが残されています。

深刻な干ばつ被害のため、農作物は不作となり、水場は干上がり、食料不安につながっている。

世界のすべての地域は、安全な水の不足という課題に直面しています。水資源が十分にある国でも、水不足は珍しくありません。水インフラの崩壊や水質汚染、水資源の不適切な管理、紛争など、さまざまな要因で生じ悪化する水不足は、子どもたちの命と生活を脅かします。

2024年度日本ユニセフ協会の収支概要をご報告いたします。

2024年は、パレスチナ・ガザ地区やウクライナ、シリア、イエメン、スーダンなどで長期化する紛争に加え、ハイチ、レバノン、ミャンマーなどで武力衝突が激化し、世界各地で子どもたちが犠牲となる人道危機がより深刻となりました。さらに、気候変動の影響による深刻な干ばつや熱波、洪水、暴風雨など、自然災害も相次ぎ、子どもたちの生活に深刻な影響を与えました。

そのような状況下、最も困難な状況にいる子どもを最優先に、すべての子どもたちへの支援に取り組むユニセフの活動を支えるため、日本ユニセフ協会は日本国内で、募金・広報・アドボカシー活動を展開しました。

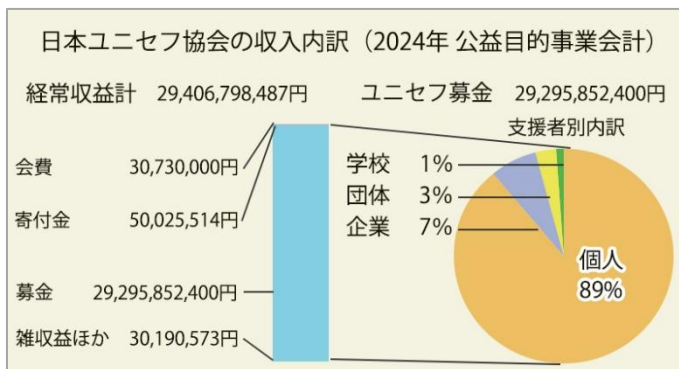
どのような危機にあっても、その影響をもっとも受けやすいのは子どもたちです。ユニセフと日本ユニセフ協会は、誰ひとり取り残されることなく、世界のすべての子どもが健やかに成長し、自らの持つ可能性を最大限に発揮できる世界を目指し、活動を続けています。世界の子どもたちのための活動を支えてくださる日本の皆さまの寛大なご支援に、改めまして心より御礼を申し上げます。

1.収支(公益目的事業会計)解説

*収入の部

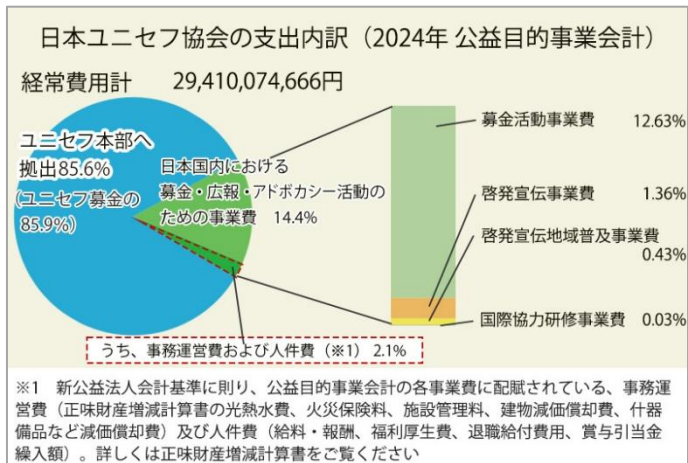
2024年度、みなさまのあたたかいご支援により、日本ユニセフ協会にお寄せいただいたご寄付は、**292億9,585万2,400円**となりました。全体のうち、個人によるご寄付が**89%**、企業・団体・学校からのご寄付が合わせて**11%**を占めました。

募金に加え、会費、寄付金、雑収益ほかすべての経常収益計は、**294億679万8,487円**となりました。



*支出の部

2024年、当協会は、**251億6,200万円**をユニセフ本部に拠出しました。これは、経常費用計**294億1,007万4,666円**の**85.6%**(みなさまからお寄せいただいた募金**292億9,585万2,400円**の**85.9%***)にあたります。経常費用計の**14.4%**は、ユニセフ本部との協力協定に基づき、ユニセフ支援の輪を広げるための、国内での募金活動(領収書/寄付控除申請書類の印刷・発送費や振込/決済に係る費用などを含む)、広報・アドボカシー活動、国際協力に携わる人材の育成活動などに充てさせていただきました。そのうち、事務運営費および人件費は**2.1%**です。



日本ユニセフ協会の活動報告から。(抜粋)

- ◆お預かりした募金の**251億6,200万円**は、ユニセフ本部を通して、世界**190**の国と地域活動に拠出しました。
- ◆お預かりした募金額の**14.1%**は、下記のような日本国内での活動に支出しました。

募金活動

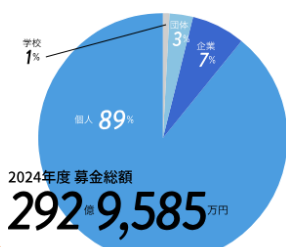


活動には、学校や団体などからボランティアの皆さんがたくさん参加していただきます。

*個人の皆さまからの寄付額
約**260億円**

*年間**10万ドル**以上のご支援をいただいた法人
14企業10団体

*外国コイン募金
約**1億4440万円**相当



広報活動

新たな取り組みを紹介しています。



- *報道露出 新聞・雑誌・TV **2,710件**
- *報道露出(WEB) WEB媒体 **18,315件**
- *報道機関向け発信 プレスリリースなど**186本**
- *ソーシャルメディア(SNS) フォロワー/ファン数計**16万1,500人**

*ドボカシー活動 & ○啓発活動



- *「子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)」の推進
- *子どもの権利の推進

- 子ども向けSDGs学習サイト(SDGs CLUB年間総閲覧数約**1,713万回**)
- 大学生ボランティア組織 **unicef Campus** メンバー登録者 **158名**
- ユニセフ教室(講師派遣)を受けた児童・生徒 **46,578名**
- ユニセフハウス常設展 年間来館者数 **10,336人**

ユニセフ
チャリ
ティー

「すべての子どもの命と未来を守る」ために
ユニセフのイベントに、あなたの参加をお待ちしています。

unicef
for every child

バザーのおしらせ

佐賀県ユニセフ協会では、毎年、すべての子どもに食べ物や薬、温かな毛布や教育の機会等、必要とするものを支援するために、「ユニセフチャリティバザー」に取り組んでいます。今年のテーマは、

「**ミャンマー地震で被災した子ども達を助けたい**」です。今年の3月28日午後0時50分(現地時間)、ミャンマーでマグニチュード7.7の地震が発生しました。震源地は、ミャンマー中部のマンドレー近郊で、100万人以上が住むミャンマー第2の都市です。今回の地震は、紛争の激化や気候災害など、同国の子どもたちの状況がすでに高いリスクにさらされている中での出来事です。現地の国営放送によると、3,000人以上が死亡していて、現在も捜索・救助活動が続いており、人道支援のニーズはさらに増えると予想されます。特にこれからは雨期に入る時期で子どもたちの健康のリスクは高まるばかり、緊急の支援が必要です。ぜひ、バザーにお出かけください。

★ 5月18日(日)14:00~15:30

★ 佐賀玉屋 南館 アーケードで開催

★ バザー品は、ほとんど未使用、新品

★ 買って 支援をおねがいします。

unicef for every child

第29回 ユニセフチャリティバザー

ミャンマー地震で被災した子ども達を助けたい！

3月28日にミャンマーを襲ったマグニチュード7.7の壊滅的地震により、数百万人の子どもが危険にさらされ、地震前からすでに悲惨だった人道状況がさらに悪化しています。

日時 2025年 5月18日(日)14:00~15:30
場所 佐賀玉屋 南館アーケード 完売次第終了

バザー品 ご提供のお願い ☆日用雑貨品、タオル類、陶磁器、寝具類、洗剤類 等 (未使用のもの) ☆食料品 (賞味・使用期限内のもの) ☆その他	当日 ボランティア 募集 ☆会場での売り子ボランティア 5月18日(日)13時~16時 ☆多くのお客様に対応するためにご協力をお願いします
--	--

↓ バザー品を 出しても、買っても、支援ができます。お待ちしております。

主催 ユニセフチャリティバザー実行委員会 協力 佐賀玉屋デパート
佐賀県ユニセフ協会 〒840-0054 佐賀市水ヶ江4-2-2
TEL & FAX 0952-28-2077 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

* 7/1(火)18:30

* GEILS にて入場無料

チャリ
ティ
ライブ

「すべての子どもに平和な世界を！」
「木原慶吾 & スピリッツ」と仲間の皆さんが、
『チャリティ LIVE』で支援

「すべての子どもに平和な世界を!!」
チャリティライブ

主催：佐賀県ユニセフ協会 共催：木原慶吾 & スピリッツ
～ STOP THE WAR! ～
世界中の子ども達が平和に暮らせるよう…
1日も早い戦争の終結を祈るばかりです！
1人1人の力は微力でも音楽の力で！！

木原慶吾 & スピリッツ 内山敬太 from ケイタク
Three M Mellow Yellow アンサンブル・バストラーレ

日時 2025年 7月1日(火) 18時開場 18時半開演
会場 「LIVE HOUSE GEILS」 佐賀市駅前中央2丁目7-18
※駐車場は有りませんので、近隣の有料駐車場をご利用下さい。

入場無料 (※要1ドリンクオーダー)
集まった支援金は全額、世界の子ども達の為に役立たせて戴きます！

お問合せ
佐賀県ユニセフ協会 電話 0952(28)2077
サウンドスピリッツ 電話 0952(33)3711
佐賀県ユニセフ協会募金口座番号 佐賀銀行 水ヶ江支店 普通 1476785
unicef for every child

【木原慶吾さんからのメッセージ】

～ **STOP THE WAR** ～

世界中の子ども達が平和に暮らせるように…

1日も早い戦争の終結を祈るばかりです！

1人1人の意からは微力でも 音楽のちからで！！

【佐賀県ユニセフ協会から】

ロシアがウクライナに侵攻して3年もの月日が過ぎました。国土の多くが破壊され、故郷は焼土と化しています。人々の悲しみは計り知れません。

ガザ地区でも、民間の人々や子ども達が爆撃のために命を落としています。また、支援物資の搬入が遮断され、食料や水、医療品もなく、人道支援が急務です。シリアに、南スーダン、アフガニスタン等も火種は消えず、混とんとした状況が続いています。

木原慶吾さんから、今年も“音楽の力なんか 無力かもしれませんが。しかし、小さな力がたくさん集まれば…紛争地の子ども達に届くかもしれません。緊急支援チャリティ LIVEを開催しましょう”と声をかけていただきました。皆で平和の声をあげましょう。

出演協力の 木原慶吾 & スピリッツ 様

内山敬太fromケイタク 様

Three M 様 Mellow Yellow 様

アンサンブル・バストラーレ様 ありがとうございます。

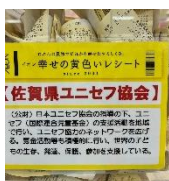


○1月7日(火)10:00～11:00 佐賀県地域婦人連絡協議会
理事会研修 講話
テーマ:「子どもを取り巻く世界の状況とユニセフ活動」
～皆さんのご支援が、子どもたちの命を救っています～
参加者:理事会参加者 12名 <佐賀県婦人会館>



○1月10日(金) イエローレシートキャンペーン ギフトカード贈呈式 11:00～12:00
★会場:イオン佐賀大和店 1階 催事場

○ 1月11日(土) イエローレシートキャンペーン 14:00～15:00 <大和イオン佐賀店>
内容:「きびしい環境でくらす」世界の子ども達への支援呼びかけ
○ 2月11日(火) イエローレシートキャンペーン 14:00～15:00 <大和イオン佐賀店>
内容:「きびしい環境でくらす」世界の子ども達への支援呼びかけ



○ 2月13日(木) 佐賀県南部地区郵便局長会様が『ユニセフを支援する母子草』へ
使用済切手25kgを 寄贈 11:00～11:20
<佐賀県ユニセフ協会事務所>



○ 2月25日(火) 佐賀市立鍋島小学校ハートフル委員会の児童から募金贈呈13:00～13:30
*募金の方法:日本ユニセフ協会から送られてくるポチ袋で募金回収
*募金額:¥17,857円 (通常募金)
*「2023 We Support Unicef」の認定書が廊下に掲示



○ 3月1日(土) 佐賀県ユニセフ協会 役員総会 13:30～15:10
*協議事項:令和6年度事業・会計報告について
令和7年度事業案・予算案について
*講話:『佐賀県ユニセフ協会30年の歩み』と「設立30周年記念式典の報告」
*参加者:理事・評議員等 36人(委任状含む)
<佐賀新聞社 4階 会議室>



○ 3月13日(木) J A佐賀県女性組織協議会様より「愛の募金」を¥68,924円 贈呈 12:00
* J A佐賀県各女性地域組織から書き損じはがき
*使用済切手やインクカートリッジ30箱も寄贈
(使用済切手 9.9 kg、インクカートリッジ 4811個、トナー85本
書き損じはがき 1545枚) トータルで募金に換算すると約254,400円相当
<佐賀県 J A会館>



○ 3月29日(土) Let's Do Unicef 『春休みやってみようボランティア』13:30～15:00
◆内 容:①「子どもの権利」について考えよう
②「使用済み切手整理」のボランティアをしよう
◆時 間:13:30～15:30
◆会 場:青少年センター
◆対 象:中学生・高校生 68人



○ 4月12日(土) <2024-2025 リーグH> レッドトルネード試合会場で選手による募金活動
*14:00【レッドトルネードSAGA VS トヨタ車体ブレイヴキングス刈谷】
*募金額:¥19,425 円 「ウクライナ緊急募金」
<SAGA プラザ 総合体育館>



○ 4月16日(水) 弘堂国際学園様から「ミャンマー地震緊急募金」贈呈 10:00～11:00
*募金額: ¥423,680円贈呈
*ミャンマー出身 留学生6人
(鳥栖駅やフレスポで募金活動)
<佐賀県ユニセフ協会事務所>



- 4月19日(日) サガン鳥栖試合会場での募金活動 13:00～14:15
 【サガン鳥栖 VS レノア山口】 試合前
 ★内容:サガン鳥栖試合会場での「募金活動」及び「パネル展示」
 ～ミャンマーで地震の被害を受けた子ども達を助きたい～
 ★募金総額は ¥261,768円



ご支援 ありがとうございます

コープさが生活協同組合様、佐賀リハビリテーション病院様、JA佐賀県女性組織委員会様、平尾建設コンサルタント事務所様、ユニセフを支援する「母子草」様、
 弘堂国際学園日本語学校様、佐賀市立鍋島小学校ハートフル委員会様、大和特別支援学校様、佐賀県立ろう学校中学部様、鳥栖北小学校様、佐賀学園生徒会様、
 佐賀県民協働課様、佐賀県南部地区郵便局長会様、第一生命労働組合佐賀営業職支部様、サンテ溝上病院様、
 佐賀市立図書館様、かささぎの里様、明治安田生命佐賀支社佐賀西部様、佐賀新聞社様、佐賀商工会女性部連
 合会様、鳥栖北まちづくり協議会様、税理士法人諸井会計様、JSA中核会様、ゆめぷらっと小城様、基里地区ま
 ちづくり推進協議会様、市民活動プラザ様、浄土真宗本願寺派多久組仏教婦人会様、田代地区まちづくり協議会様、
 若葉地区まちづくり協議会様、鳥栖市役所市民協働課様、
 (順不同:2025年1月10日～2025年4月20日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄での
 ご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。



賛助会員



佐賀県ユニセフ協会では、県内でのユニセフ支援の輪を広げていく
 ために、ユニセフの賛助会員になって支援して下さる方を募集して
 います。

佐賀県登録の賛助会員様は、佐賀県ユニセフ協会の運営を支える大きな柱です。
賛助会員会費の50%が、佐賀県ユニセフ協会の運営仮受金となります。また、賛助会費は寄付金控除
(40%)の対象になります。 現在、佐賀県ユニセフ協会を支援してくださっている個人の賛助会員
 数と団体賛助会員は以下の通りです。

現在の 賛助会員数

- ◆ 一般賛助会員・・・1口 5,000円
- ◆ 学生賛助会員・・・1口 2,000円

賛助会員の皆様、ご支援に感謝いたします。

団体会員	一般会員	学生会員	会員数合計	会費総計
6 団体	156人	17人	178人	¥1,396,000 円



団体賛助 会員

- ◆ 団体賛助会員・・・ 1口 100,000円

団体賛助会員様のご紹介。ご支援に感謝いたします。

★(医)智仁会 佐賀リハビリテー ション病院 様	吉原 正博 様
★(有) 吉原医設 様	吉原真紀子 様
★木村情報技術 株式会社 様	木村 隆夫 様
★ Nスタイル ノグチ株式会社 様	野口 博文 様
★医療法人 ひらまつ病院 様	平松 克輝 様
★株式会社戸上電機製作所 様	戸上 信一 様



(佐賀リハビリテーション病院様)



(株式会社 木村情報技術様)



(Nスタイル ノグチ株式会社様)



(ひらまつ病院様)



(戸上電機製作所様)

unwish の仲間たち!

佐賀県立三養基高等学校 あすなろ部 の皆さん -みやき町-



(三養基高校 あすなろ部の皆さん)



三養基高等学校
HPより

<三養基高等学校の紹介>

三養基高校は2025年で創立105年を迎える、歴史のある普通科の高校です。校訓の「質実剛健」のもと、文武両道を目指し、生徒たちは勉強や部活動に誠実に頑張っています。

また、「唯一無二 三養基」のスローガンには、一人一人が自分にとっての唯一無二となるものを見出しているという気持ちが込められています。

さらに、今年度の新入生から制服がリニューアルしました。機能性・デザイン性に優れ、卒業生や在校生が一生懸命考えた、次の100年を担う後輩たちへの素晴らしい贈り物となりました。

あすなろ部の活動紹介

三養基高校は、ボランティア活動等で地域に関わるにより、地域に根差し、地域に元気を与える学校としてその魅力を高めることを目指しています。その活動を紹介します。



【ひまわり児童クラブ】

週2回の放課後、中原小学校のひまわり児童クラブに参加しています。居残りの子供たちと一緒に遊んだり、勉強のお手伝いをしています。子供たちは元気いっぱい、好奇心いっぱいで楽しいです。

月に1回の開放日に参加しています。学童児未満のお子様と一緒に遊んだり、絵本を読んだりしています。赤ちゃんと触れ合う機会があるので、とても貴重な体験です。また、夏祭りやハロウィンなどのお祭りもあります。



【とっこい子育てクラブ】

あすなろ部と佐賀県ユニセフ協会とのつながり

三養基高等学校「あすなろ部」は、先輩方からずっと佐賀県東部地区で実施されるユニセフの募金活動や様々なボランティア体験にも積極的に参加をしています。グローバルな視点で世界で厳しい環境にいる同世代の仲間のために自分たちにできる支援をしようと、年末には「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド」募金活動や4月にはサガン鳥栖ホーム戦会場での募金活動などにも参加しています。また、長期休業中の「平和問題」や「子どもの人権」などのミニ研修やボランティア体験（使用済み切手整理）にも参加しています。



【年末フレスポでの募金活動】



【駅前不動産スタジアムでの募金活動】



【春休み切手整理ボランティア】



《担当の蟻川先生のコメント》

★あすなろ部は三養基高校でも大変歴史の長い部活動で、メインの活動である「ひまわり」や「とっこい」だけでなく、校内外で様々な活動をしています。これからも地域の人々とのつながりを大切にしながら、活動をしていきたいと思います。

(原稿提供: 蟻川 佳史 先生 取材: 江島 きよ子)